



NEWS 令和2年度遠野市史編さん講座を開催しました

12月5日（土）令和2年度遠野市史編さん講座「伝承を記録する—自治体史民俗編のあり方—」を開催しました。講師はみちのく民俗文化研究所代表で、遠野市史編さん民俗部会の岩崎真幸いわさきまさき部会長が務めました。

民俗とは、いわば私たちの生活そのものであり、「あたりまえ」のことが多いため、なかなか記録には残りません（例えば毎日の献立など）。そこで経験者に聞いたり、日記や写真などの資料から当時の生活を調査します。「民俗調査は、経験者に教えてもらう作業」とすると岩崎部会長は話されていました。

今回の講座は新型コロナウイルス感染症対策のため定員を例年の半数以下に減らし、「つくる大学」と連携しインターネットでライブ配信を行いました。講座の様子は来年1月4日まで、YouTubeの「つくる大学公式チャンネル」で公開しています。



つくる大学公式チャンネル

[https://www.youtube.com/channel/](https://www.youtube.com/channel/UC4cGnMxT3emqzRQoLDga21w)

[UC4cGnMxT3emqzRQoLDga21w](https://www.youtube.com/channel/UC4cGnMxT3emqzRQoLDga21w)



▲講座の様子



▲講師の岩崎真幸部会長

部会の窓 第1回民俗部会研究会を開催しました



▲綾織町の二郷大明神



小友町の巖龍神社▶

12月5日（土）、6日（日）の2日間、第1回目となる民俗部会の研究会を開催しました。研究会は部会とは異なり、調査を実施したり、各委員の調査結果を共有したりする場です。今回は、市外在住の委員も多いことから、遠野市の地理や地勢を把握するため市内各所でフィールドワークを行いました。

フィールドワークでは、綾織町の千葉家住宅や宮守町のめがね橋といった地域のランドマークのほか、人々の暮らしのりがわかる各地の産直、神社などをまわりました。また、委員のリクエストで車窓から見えた野墓のぼかに立ち寄る場面も見られました。1日半かけて遠野をまわり、「遠野は広い」と改めて実感した研究会でした。

12月初旬、宮守町達曽部地区の史跡の空撮を行いました。今回撮影したのは、市指定史跡の金取遺跡と達曽部館跡です。作業は(株)栄組に委託し、ドローンを使用して空中から撮影しました。

現在発掘は行っていませんので、遺跡がどのような立地にあるのかわかりやすいように遺跡の周囲もあわせて広範囲に撮影しました。また、この時期は落葉して地形が見えやすくなる時期でもあります。当日は風や雲に悩まされながらも、様々なアングルから史跡を撮影することができました。今後、市内の他の史跡でも空撮を行っていく予定です。



▲ドローンを離陸させる様子



年取りのお膳



▲年取りの膳の一例(レプリカ/遠野市博)

遠野の年取りの様子(昭和以前)



青笹町沢田

米の飯、汁物(野菜をたくさん入れて煮た。人参、ごぼう、ニドイモ、コンニャク、大根、豆腐)魚(塩ます、竹輪、たこの足)煮付物(わらびの胡桃あえ、黒豆、刻み昆布、ささげ豆の煮付)よろこびなます(大根、人参、干柿、青豆、はらこ)酒(どぶろく、あま酒)

中央通

必ず買うものは、なめた、赤魚、サガ、昆布、塩鮭(後略)

綾織村

(前略)市日が立ち、鮮魚等多く買い、各家にもこの日はお頭付きの魚、白御飯で家内揃って年を送る。

宮守村

白飯、魚=塩引、かれい、お汁=大根、ひきな等をなす。三杯酢=大根線引、人参線引、ごま

『岩手の小正月行事報告書』『上閉伊西部教育資料 郷土のすがた』より抜粋

もうすぐ2020年も終わり、新しい年がやってきます。遠野の年越しになくてはならないものといえば、やはり「ナメタガレイ」。食料品店で大きなナメタが並んでいるのを見かける時期になりました。現在ではお正月におせちを食べる方も多くなっているかもしれませんが、かつては歳神を迎えるために豪華な年取りのお膳(大晦日に食べる夕食)が用意され、正月元日はあんこ餅や雑煮など餅料理が中心でした。

年取りの膳には、ナメタガレイやブリなどの魚の煮付け、煮しめ、黒豆、なます、白米飯、吸い物などが並び、1年で1番豪華な食事を皆が楽しみにしていたといいます。皆さんの年取りの膳には、どんなものが並びますか?



◀遠野市博に展示されているナメタガレイのレプリカ。標準和名はババガレイといい、三陸地方の代表的な年取り魚。

本年も市史編さん事業にご協力をいただき誠にありがとうございました。よい年をお迎えください。

